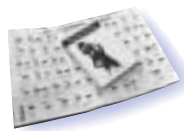


聴覚障害を持つ人と会話を楽しみ、コミュニケーションをとりたいた「手話」を学び、活動している手話サークル「ひよこ」のみなさん。昭和57年に発足以来、27年間の長きにわたり活動されています。土曜日の午後のサークルにお邪魔しました。



「ありがとう」から始めよう！ 手話サークル「ひよこ」



「ひよこ」が生まれた！

このサークルの代表は三谷眞智さん(野市町)。以前、社会福祉協議会のヘルパーとして訪問した家庭に、聴覚に障害のある方がおられました。昭和56年のことでした。会話や、「コミュニケーションをとるために」「どうしても！」と必要に迫られて手話講習を受けたことがきっかけとなり、その後、社会福祉協議会の後押しを受けて手話サークルを発足されました。現在の会員は20人ほどで、発足以来続けられている方もいるそうです。

分かり合うために

活動は、毎週土曜日の午後と、月2回の水曜日の夜間に「のいちふれあいセンター」の一室で単語や、会話の練習をしています。

取材に伺った時は、聴覚に障害を持った方が講師役となっており、都道府県の名称を手話で表し、メンバー一人ひとりが、その県の特徴や訪れた時のエピソードを披露するなど会話の練習中。お互いに教え合い分かりやすく伝えるために口を大きく開け表情も豊か。何とか伝えたい、理解したいとの思いが、普通に会話をするよりもはるかに表現力や、集中力を高めています。

力になりたい

こうした日ごろの練習以外にも、他町のサークルとの交流会や、研修に出かけるこ

ともあるそうで「移動中のバスの中でも、楽しく練習するんですよ！」と三谷さん。また、町内の量販店で食事のオーダーを手話で挑戦してみたとか。

そして障害のある方が社会参加をする時には手話通訳を行うなど、日頃の練習の成果を発揮されています。

今後は、手話で「パントマイム」や「コーラス」など、楽しいイベントも考えているそうで「少しでもみなさんに喜んでいただける活動を続けていきたいですね」と話されました。

「ありがとう」

取材を終えた帰りぎわ、「せっかくなので一つでも覚えていただく」との声で、教えていただいたのは「ありがとう」。みなさんも手話サークルで「ありがとう」から始めてみませんか？

問い合わせ

手話サークル「ひよこ」
代表者 三谷眞智
☎55-0800



編集後記

▼何で？どうして？に「一笑懸命」の中学生。置きみやげの「元気で無事校了！」(井)
▼中学生のやる気・元気・本気におじさんはタジタジ(三)
▼つらい、逃げたい…そんな苦しい時こそ、自分が一番伸びるチャンスなんだということを忘れない。(三)

《広報へのメール》
kouhou@city.kochi-tonan.lg.jp
《香南市のホームページ》
http://www.city.kochi-tonan.lg.jp

市のうごき (H21. 5. 31現在) ()は昨年同月対比

■人口/33,840人	■5月の火災・救急事故
■世帯/13,800戸 (男/16,135人 女/17,705人)	■火災 4件〔3件増〕
■出生/ 15人 ■死亡/ 34人	■救急 144件〔20件増〕
■転入/ 54人 ■転出/ 68人	■5月の交通事故
■対前月人口比/ 33人減	■事故件数 10件〔7件減〕
	死者 0人〔増減0〕
	傷者 11人〔6人減〕